

## 各社の考え方

### □ 算定を行う背景・目的

- キリングroupでは長期環境ビジョンを掲げ、バリューチェーンから発生する環境負荷を地球が賄うことのできる能力とバランスさせる「資源循環100%社会の実現」を目指している。
- 「地球温暖化」の防止は「水資源」、「生物資源」、「容器包装」を含めた長期環境ビジョンの4テーマのひとつであり、2050年までに事業のバリューチェーンでのCO2排出量を地球の吸収可能な範囲に抑えることを到達目標として取り組んでいる。

### □ 算定結果の活用方法

- CDPやホームページで算定結果を公表している。
- 排出量の削減効果の確認や、削減施策の検討に活用している。

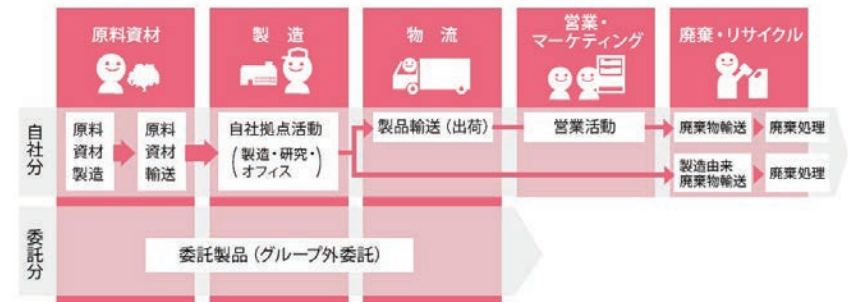
### □ 算定のメリット

- 原料調達や販売の段階での排出量が多いことを確認することができた。自社で対応可能な部分と、他との協力が必要な部分が明確になったことは大きな成果である。
- グループの排出目標を掲げたことで、グループ全体で意識を合わせて取り組むことができるようになった。

### □ 社内の算定体制

- 算定に必要なデータはグループ各社から所定のフォーマットで集約している。
- データの集計および排出量の算定については外部のコンサルタント会社の協力も得て行っている。

CO<sub>2</sub>排出量の算定対象



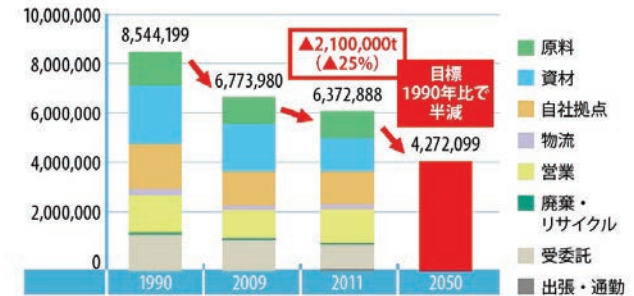
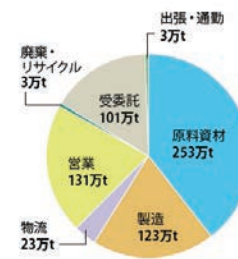
## 各社の考え方

### □ サプライチェーン排出量の削減に向けて

- キリングroupでは2009年にサプライチェーン全体での排出量を2050年までに1990年比で半減させることを目標として設定した。
- 2010年に「GHGプロトコル」の「スコープ3・スタンダード」に準拠した、「バリューチェーンCO2算定基準」を策定し、バリューチェーン全体でCO2排出量を把握した。
- 2012年にも2011年のバリューチェーン全体でCO2排出量を把握し、1990年比で約25%削減されていることを確認した。

### 算定結果

	1990年	2009年	2011年
原料資材	361万t	291万t	253万t
製造	172万t	130万t	123万t
物流	26万t	20万t	23万t
営業	148万t	112万t	131万t
廃棄・リサイクル	6万t	5万t	3万t
受委託	140万t	120万t	101万t
出張・通勤	—	—	3万t
合計	854万t	677万t	637万t



[http://www.kirinholdings.co.jp/csr/report/pdf/report2013/environmental2013\\_2-04.pdf](http://www.kirinholdings.co.jp/csr/report/pdf/report2013/environmental2013_2-04.pdf)

### □ サプライチェーン排出量算定の課題

- 総量で目標を立てているため、事業の拡大や原単位が変動した際に排出量が多く算出されることから考え方の整理が必要である。
- データ収集・算定に労力がかかることから、算定業務の効率化が必要である。

### □ これからサプライチェーン排出量を算定する方へ

- 算定にあたっては各部門の連携が不可欠であり、社内でコンセンサスを得てから進める必要がある。
- 具体的な削減目標を掲げることで、グループ全体の意識を高めて取り組むことができる。

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原料・資材種ごとの調達量	● 原料・資材種ごとの排出原単位
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 燃料使用量、物流量(トンキロなど)	● 燃料使用量、物流量ごとの排出原単位
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種ごとの排出量	● 廃棄物種ごとの排出原単位 (シナリオを設定)
カテゴリ6「出張」	● 社員数	● 社員1人あたりの排出原単位 (シナリオを設定)
カテゴリ7「従業員の通勤」	● 社員数	● 社員1人あたりの排出原単位 (シナリオを設定)
カテゴリ10「輸送・流通(下流)」	● 製品カテゴリー毎の販売量	● 製品カテゴリーごとの排出原単位
カテゴリ13「販売した製品の廃棄」	● 容器包装種ごとの排出量 (容り法該当商品について算出)	● 容器包装種ごとの排出原単位